

下咽頭、食道重複癌における遺伝子変異の共通性に関する研究

はじめに

当院 頭頸部外科では、下咽頭癌、食道癌に対して両癌ともに手術を受けられた患者さんを対象に研究を実施しております。内容については下記のとおりとなっております。

尚、この研究についてご質問等ございましたら、最後に記載しております[問い合わせ窓口]までご連絡ください。

1. 研究概要および利用目的

下咽頭癌、食道癌に対して2010年1月1日から2020年12月31日の間に神戸大学医学部附属病院、もしくは兵庫県立がんセンターで手術治療を受けられた患者さんを対象に、研究を行っています。下咽頭癌、食道癌には飲酒やたばこでできやすい癌があることが多くを占めることが分かっています。これらの飲酒やタバコが後天的(生まれつきでなく)に遺伝子を傷つけることにより遺伝子変異をきたし癌化すると考えられています。下咽頭癌や食道癌をきたした場合、多発することが多いので下咽頭癌と食道癌の両方の癌を経験した場合、二つの癌に共通の遺伝子変異があるかもしれないと考えています。その手がかりを探るために、手術で摘出した腫瘍の一部を使用し、遺伝子変異の特徴を探る研究を行います。

2. 研究期間

この研究は、当院 倫理審査委員会承認日から2024年12月31日まで行う予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類、方法

- ・患者基本情報:年齢、性別、既往歴、飲酒歴、喫煙歴、診断名、病気の進行度、治療内容、再発の有無、生存の有無(現病、他病)、他癌罹患の有無
- ・手術で摘出した組織
- ・方法:手術により採取されたホルマリン固定パラフィン包埋病理組織標本からDNAの抽出を行い遺伝子検査を次世代シーケンサーを用いて網羅的に検出することで重複した双方のがん細胞における遺伝子変異部位の重複性を検討いたします

4. 研究機関

この研究は以下の研究機関と責任者のもとで実施いたします。

代表研究機関

神戸大学大学院医学研究科外科系講座耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野 丹生 健一

協力研究機関

兵庫県立がんセンター 頭頸部外科 (研究責任者:岩江 信法)

順天堂大学大学院医学研究科 難病の診断と治療研究センター (研究責任者:岡崎 康司)

5. 利益相反

本研究に利益相反はありません。